余白手帖

発行人　あおい文化交流研究所
http://aobunlabo.or.jp/

亜細亜の鼓動

今回から、韓国在住の韓日翻訳家、中村恵実子さんのエッセイがスタートする。中村さんは現在、韓国人の夫と、韓国の地方都市で二人暮らし。韓国での結婚生活は二十五年になるそうだ。その間、三人のお子さんを立派に育て上げ、家事や仕事に追われながらも、充実した韓国ライフを送ってこられた。寝る事、歌う事が大好きで、本を読んだり文章を書いたりするのもまた、生き生きと暮らすために欠かせないと語る。五十代になり、子育ても一段落した今、世界に散らばる仲間とつながるためにｎｏｔｅで自分発信を始め、さらに今だからこそできることに挑戦していきたいと、本誌へご寄稿くださることになった。

そんな中村さんならではの韓国暮らしエッセイ、第一回は「キムジャン」だ。ご存じの方も多いと思うが、韓国では冬に入る前に大量のキムチを漬ける。キムジャンにちょうど良い時期を知らせる、キムジャン前線なるものが新聞に載ったりもする。若い人やソウルのような都会に住む人たちには、過去のものになりつつあるキムジャンだが、年中行事として今でもしっかり根付いている地域も少なくない。韓国のアジュンマたちに交じってキムジャンに奮闘する中村さんの抱腹絶倒エッセイ、どうぞお楽しみください。

韓国に暮らして 25 年の日本人翻訳家による ディープな韓国ライフエッセイがスタート！

A MARGIN OF LIFE VOL.7　2023.10

韓国の片隅から「心熱きキムジャン」
中村恵実子

古代のロマン「菟道稚郎子の死の謎 4」
橋田恵子

「風立ちぬ 東ジアの気象地図」 第 3 回
元毎日新聞論説委員 元ソウル・バンコク支局長 下川正晴

MOVIES 『マイ・ハート・パピー』
BOOKS　K ー BOOK フェスティバル 2023

心熱き キムジャン

中村恵実子
1970 年徳島県生まれ、徳島大学卒業。韓国国立公州大学校 地理学科博士課程中退。20 年を越える韓国生活で 3 人の子供を育てる主婦生活の傍ら、日本語教師、韓国語講師、韓日通訳翻訳、声優、貿易コーディネート等を経験。韓国高敞ハッピーデイ新聞にエッセイ「中村さんの高敞暮らし」を 3 年半隔週連載。日本の雑誌メディアへの韓国関連記事多数掲載。『 値段から世界が見える 』世界書き人クラブ編 韓国パート執筆 (朝日新書 2012)。翻訳書『 400 年の長い道 』尹達世著 (韓国 幸福エナジー出版 2022)。NOTEblog「えみコリア」

韓国の片隅より

結婚を契機に韓国に住んであっと言う間に四半世紀が過ぎてしまった。韓国人の夫と毎年四国に帰省している。実家のテレビからは韓国ドラマが流れ、食卓には普通にキムチが置かれている。それだけ見るとまるで韓国に居るみたいだけれど、実は日本のキムチには夫婦二人してあまり食欲をそそられない。日本で食べるキムチは色々何かが違う。日本語の「キムチ」と韓国語の김치は、韓国人には明確に違う音だということもあって「別物」だと思える。

そう思うのは韓国でも特に食を大事にする地域、全羅道に嫁いだ影響もあると思う。朝鮮半島南西部の海沿いの地域だ。冬前の大量のキムチ漬けををキムジャンというがこれは韓国の国民的行事で、二十世紀の職場にはキムジャンに休暇や特別手当が出る所もあったという。十一月に入れば早い家はキムジャンを始める。キムジャンに必要な材料がスーパーの店頭の目立つ所に置かれ始める。この時期の女同士の挨拶は「キムジャンした？　キムジャン終わった？」になる。私の家の周りにはお年寄りが多いので特にそうだ。

ソウルを含め幾つかの地域で暮らしてきたが、十五年程前からは夫の故郷の農村に住んでいる。家は夫の姉達とスープの冷めない距離にある。毎年義姉宅の大規模なキムジャンに関わってきた（コロナ期は大きくは出来なかった）。私の家では大量のキムチは食べないけれど、義姉達がどれほどキムジャンを大事に思ってるかが、言動の端々から伝わってきた。都会に住む子供達に宅配でキムジャンキムチを送る事は、義姉達にとっての心の義務に見えた。

キムジャンは多くの人手を必要とする重労働で、広い場所と多量多様の材料の調達を必要とする。地元の名士である義姉宅のキムジャンは多い時で白菜五百個を漬けた。どれほど大量か想像がつくだろうか。薬味に入る材料の種類も実に多い。大量の唐辛子粉、ニンニク、生姜、玉葱、葱類、芥子菜、アミの塩辛、リンゴや梨等の果物。地域によっては牡蠣のような海産物を入れ込んだりもする。種類も多いが投入される量も多いので、キムジャン用具は規格外の大きさだ。白菜を漬けこむ樽や薬味を混ぜ込む桶は、大人二人でも入れる浴槽サイズで、それをかき混ぜる木製のしゃもじは、ボートのオールサイズだ。ヤンニョムと呼ばれるペースト状の薬味はコチュジャン程ではないが、意外に水気が少なくねっとりしているの

で攪拌に相当な力がいる。女だけでやるには力のいる作業が所々に多い。私は「キムジャン」という言葉を聞いただけで、思わず身体が後ずさりし肩は重くなる。和気あいあいと皆で集まってキムチを漬ける韓国の季節行事だとはとても言えない。

私が経験してきた田舎のキムジャン風景はこんなだった。一言で言えば「キムジャンは戦争だ！」。夫の長姉がキムジャンの総大将で、次姉がキムジャン実行隊長だ。夫の兄の畑から白菜トラックがやってきたら庭に白菜を積み上げる。お風呂の椅子みたいなのに皆で座り、白菜に包丁で切れ目を入れ手でぐっと力を入れて裂く。白菜に塩をしてどんどん積み上げる。白菜は一晩位塩漬けにされる。しんなりしたら白菜の水洗い。大ダライ数個に水を張って水を何度も変えながら洗う。この作業が大変な重労働なので、塩漬けが終わった白菜を購入してキムチを漬ける人達も最近は多い。白菜の水を切っている間に薬味を準備する。ニンニクや生姜なら事前に潰して冷凍できるけれど、野菜類は水が出るので当日切る。量が尋常ではないので四～五時間は何かを切り続ける。ミキサー等機械も使うが、ある程度は人が細かく手を入れないといけない材料ばかりだ。ある年、私の向かいで野菜を切っていた手伝いの奥さんは作業しながら「吐きそう」と言った。

薬味の味を決めるのがまた大変で、頼りになるお年寄りの手伝いがいると「もっと唐辛子入れろ、薄い、濃い、いや水っぽい」他人の家のキムジャンなのに自分の好みを主張する。ただこれはキムジャンに限った事ではなく、女が集まって料理する名節等で普通にある。ようやく薬味が出来たら水を切った白菜の間に塗り込んでいく。ここまで来たらもう終盤。その時の人手にもよるが三時間位は塗り続ける。白菜が終わったら次は塩水につけておいた大根に薬味を塗り付ける。もう身体がクタクタになっている時に大量の大根投入なので、この時触る大根はいつもずっしり重く感じる。もうだめだ腰が痛すぎると思っても、一旦始めた作業は止めらないので痛いままやる。キムジャンで腰が痛くなるのは当然の事で、周りに腰の痛くない人なんて誰もいない。いつでもどこでも私が一番若い。キムチ冷蔵庫専用の大きなタッパーにきっちりキムチを詰めたら積み上げていく。最終日は重いタッパーを運んでくれる男手がいないと、とてもしんどい事態になる。最後に大ダライを始めとする道具を洗浄して終わる。

大規模な家庭キムジャンは作業だけでも大変だ。人よりキムチを大事に扱って過ごしているような気がする。白菜の塩加減を計る事や薬味の味の決定は義姉達の役目だが、特にこれがセンシティブだ。白菜の厚

みやその日の気温で漬かり具合が違うので塩漬け時間は決まっておらず人の見極めが大事。また薬味の調合が上手くいかなかったら「一年の農作業が無駄になる」と義姉達はいう。畑に種を植える所からキムジャンは始まっているという感覚だと思う。うちのキムジャンに使われる唐辛子粉は、夏に収穫して秋に毎日手を入れて天日干ししたものだ。どこかでお金で買ってきたものじゃない。白菜もニンニクも同様で、どの畑から来たかまで知ってる。そういうあれこれが混ざって、義姉達はすごくそこに熱を注いでいる。そんな状態の女性達が三日もぶっ続けで肉体労働をすると怒った猫みたいになる。お互いに気が立ってトラブルが起こる。誰かが怒鳴って誰かが泣く。私が関わった年でそれが無かった年があっただろうか。そんな事も沢山目にしたけれど、それはとても自然な事に思えた、人間だから。お手伝いに来ていた義姉の友人が手を動かしながら、独り言のようにこう言った。「キムジャンは戦争だ」あまりにも言い得た言葉が心に深く刻まれて、今も忘れられない。

お陰様で義姉宅のキムジャンで泣くほど嫌な目にあったことは一度もない。給食室で使うような長い防水エプロンに長靴、肘まである赤いゴム手袋というガッツリないでたちで挑む。寒い時期の野外作業なので

帽子や防寒具は必須だ。女の人の気が立っている現場は、刃のついたコマがいくつもブンブンと回っているように感じた。思いもよらぬ所から理不尽の刃が飛んでくるから気をつけた。「誰も怪我せず無事に終わりますように」と祈る気持ちで身も心も備えた。脱ぐ時は鎧を脱ぐような気持ちだった。

私の経験したような田舎のキムジャンは今どんどん減っている。三十代や四十代の韓国人ママ達は嫁ぎ先や実家に行って一緒にキムジャンをするよりも、漬けたものを宅配で受け取る事が多いようだ。うちの義姉の息子の嫁さん達もキムジャンの手伝いには来ない。また韓国では長らくキムチは買うものではなく家で作るものだったが、今や必要な分だけキムチを購入できる時代になっている。都会の家庭ではそもそも自宅の冷蔵庫にキムチがない事も実は結構ある。韓国人の食卓からキムチが消えていっているのも、キムジャンの減少傾向の要因だ。

ちなみに白菜五百個になると家族だけで漬けるのは無理で、義姉は友人やご近所さんを手伝いに呼ぶ。呼んだ人に義姉は各自お礼を渡している。私の居住地よりもっと奥まった農業地域だとプマシというシステムがある。今日はこの家明日はこの家という風に、お互いがお互いの家のキムジャンの労働を手伝い合う。ただ高齢化が進む今

はそれも難しくなってきている。地方部でも家庭でのキムジャンは減少傾向にある。

だけど、あらゆるものが混じったあのキムチの美味しさは格別だった。ゴム手袋を真っ赤にして作業中の私には、誰かが熱々の茹で豚をキムチで包んで口に入れてくれた。昼になると冬前の太陽を背に受けてキムチを囲んでワイワイと食事をした。そんな田舎のキムジャンは、韓国人にとっても「いつかあった風景」になりつつある。買った方が安いものが世の中には溢れている。そうやって消えていくものが沢山ある。なので私のいうキムチも韓国人にとってさえ、すでに「思い出のキムチ」で、そのうちに「幻のキムチ」になるのかもしれない。

ともあれ私が韓国で味わった出来事の中でも、冬前のキムジャンは忘れがたい経験の一つだった。この恐ろしく時間と手間のかかる、汗も涙も文句も怒りも喜びも腰の痛みも、何もかもが挟み込まれたキムチが、私の「キムチ」だ。小さい頃からこんなキムチを普通に食べてきた夫はもっとそうだろう。だから日本のキムチに違和感を感じる事をどうかご容赦頂きたい。私が味わってきたものはキムジャンキムチだけではなく、韓国の前時代の残り香なのだろうと思う。残り香というには主張が強くて密やかではないのも韓国らしい。まるでキムチが発酵する時の匂いのようだ。世間では「良い匂い」とは言わない類の匂いだけど、自分の中には「特別な匂い」として身体に沁み込んでいる。

熱き心をたぎらせた女達がこれでもか！と漬けたキムチを私は何年も口にしてきた。いい大人になっても食べる物にあっさりせずに、自分の「これが良いんだ」にこだわれる義姉を素直に尊敬している。心をあらわにした感情相撲は人間臭くて弊害も多い。だからスマートな韓国の若者には敬遠されるけれど、「キムチ」であれ何であれ何かに燃えられる人は煌めいている。といっても今や義姉達も加齢で昔ほどは頑張れず白菜の量もぐっと減りいい塩梅に落ち着いている。今年も霜が降りる頃「キムジャン集合！」の声が掛かったら、また赤いゴム手袋と長靴で手伝おうと思っている。熱い女達の手で漬けたキムチは例える術もない位美味しい。

菟道稚郎子（うじのわきいらっこ）の死の謎４

大泉緑地の地形を航空写真で確認すると、かつては壮大な前方後円墳が築かれていたように見えます。ここにウジノワキイラッコの陵墓があったとしたら、父の誉田御廟山古墳とは、真東と真西の一直線上に位置していたことになります。

大胆な想像になりますが、桓武天皇の時に陵墓が破壊された可能性がありそうです。桓武天皇は、官製の歴史書の改修を命じましたが、この時、「宇治天皇紀」が削除され、史実も改ざんされ、天皇陵も破壊して、ウジノワキイラッコが天皇だった痕跡を完全に葬り去ったようです。先祖の腴支が、倭王のウジノワキイラッコの政権を奪った後、殺害したという史実を、後世に残すわけにはいかない、と考えたのかもしれません。

◆ヤマトタケルのミコトが平塚市の前鳥（さきとり）神社の祭神になっているのは、なぜ？

日本書紀によると、ヤマトタケルのミコトは、景行天皇の皇子・ヤマトオグナとされています。16 才の時の熊（くま）襲（そ）征伐、その後、蝦夷（えぞ）征伐などをした後、30 才で亡くなったとされる数多（あまた）の武勇伝が残されている人物です。

景行天皇紀の年代が確かではないため実在が疑われていますが、各地にある伝承から判断すると、実在した人物であるようです。そのような人物が、なぜ前鳥神社の祭神になっているのでしょうか。

前鳥神社の社宝には、ヤマトタケルのミコトの「面」がありますが、面とともに「舞」が伝えられています。その舞は、ヤマトタケルのミコトの草薙の剣の古事と来福厄除が入り混じり、単調な太鼓のリズムに合わせて舞われるもので、現在は、2 月の節分と 4 月の崇敬会大祭の時のみに公開されているとのことです。

平塚市は、古代に相模の国と呼ばれていた地域にあります。

古事記の「弟橘媛（おとたちばなひめ）」のところに、相模の国を舞台とした次のような説話が記されています。

――天皇の命令に従って東方の悪者どもを平定するために出発したヤマトタケルのミコトは、伊勢の宮に行き、ヤマトヒメに別れの挨拶をした。ヤマトヒメは、ミコトに、スサノオのミコトがオロチの尾から取り出した剣と、一つの袋を授けた。

ミコトはやがて、相模の国に着いた。その国の国造は、ミコトを騙して殺してしまおうと謀った。

「あの野の中に大きな沼があります。その沼の中に住んでいる神は、乱暴で困っているので、退治して下さい」と嘘を言った。

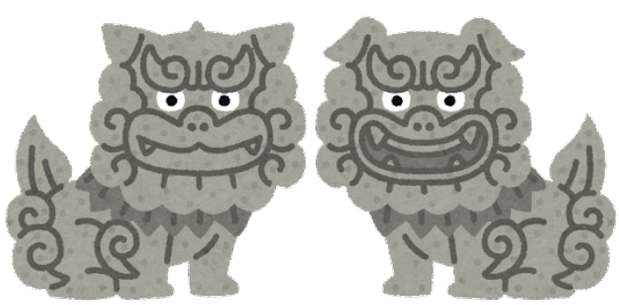
ミコトはその言葉を信じて野の中に入ると、国造は、枯れ原に火を放った。火がミコトの近くに迫った時、ヤマトヒメから授かった袋を開けると、火打石が入っていた。

授かった宝剣であたりの枯れ草を薙ぎ払い、火打石で、薙ぎ払った草に火をつけると、火は逆風にあおられて国造の方へ燃えて行った。ミコトは、こうして国造や手下どもを征伐して、家も焼いた。宝剣は、草を薙ぎ切ったので「草薙の剣」と呼ぶようになった。

その後、ミコトは、そこから船で上総へ渡ろうとしたが、大波で船がひどく揺れ、進むことができなくなった。その時、連れていたオトタチバナヒメが海神の怒りを鎮めようと、海に入って沈んだ。すると、波が静かになり、無事に上総に上陸することができた。亡くなったオトタチバナヒメは、海に入る前に歌を詠んだ。

「さねさし、相模（さがむ）の小野（おぬ）に、燃ゆる火（ほ）の、火中（ほなか）に立ちて、問いし君はも」

以上の古事記の説話と、ウジノワキイラッコを祀っている前鳥神社と野木神社の伝承を考え合わせた結果、ウジノワキイラッコの死の真相を次のように推測することができました。



◆ウジノワキイラッコの死の真相

――西暦 430 年前後の頃のこと、仁徳天皇（オオサザキのミコト）の子・ヤマトタケルは、父の天皇に命じられて、下野国造に任じられた奈良別と共に兵士を引き連れて、東方の相模国に隠れ住んでいるウジノワキイラッコを討伐するために出発した。ウジノワキイラッコは、420 年頃にオオサザキのミコトが起こしたクーデターによって政権を奪われて、相模国に逃げ隠れていたのであった。

つづく

文／橋田恵子

『マイ・ハート・パピー』
(英題：My♡Puppy)

2024年1月2日（火）よりシネマート
新宿ほか全国ロードショー

この出会いは犬生（じんせい）最高の宝物！

© 2023. Yworks Entertainment Co.,Ltd. All rights reserved.

愛犬の里親を探して旅する人生崖っぷちの従兄弟同士。彼らは行く先々で引き取り手のない子犬たちと出会い絆を深めていく。犬と人間の出会いと絆をハートフルに描いたロードムービー。

監督は、本国で驚異的な大ヒットを記録した『ミッドナイト・ランナー』のキム・ジュファン。愛犬との別れという人生最大の難関に直面したミンスを、『応答せよ1994』から『バニシング 未解決事件』『賢い医師生活』まで、幅広いキャラクターを演じて、日本でも人気急上昇中のユ・ヨンソク。ミンスとともに愛犬ルーニーの完璧な里親を探す従兄ジングクを演じたのは、映画『猟奇的な彼女』で日本でも大ブームを巻き起こしたトップスター俳優チャ・テヒョン。15年ぶりの共演ながらも、本当の兄弟のような息ぴったりの2人の演技と、言葉は通じないが心は通じる犬たちとの予測不可能なケミストリーが見どころだ。演技大賞受賞俳優、キム・ユジョン、ウ・ドファンなど、脇を固める豪華俳優陣にも注目！

＜Story＞

弟のように可愛がる愛犬“ルーニー”のために定時ぴったりに退社するミンス。しかし、ある事情からルーニーと一緒に暮らせなくなってしまう。一方、ミンスの従兄ジングクはオープンしたカフェがつぶれ、金欠に苦しんでいた。ミンスから悩みを打ち明けられたジングクは成功報酬を条件にルーニーの里親探しに乗り出す。人生崖っぷちの2人は完璧な里親を探す旅の先々で、行き先のない子犬たちと運命的に出会う。この子犬たちとの出会いが、2人の人生を大きく揺るがすこととなる。

監督・脚本：キム・ジュファン
出演：ユ・ヨンソク『賢い医師生活』、チャ・テヒョン『猟奇的な彼女』、チョン・インソン、パク・ジンジュ、キム・ユジョン、イ・ホジョン、ウ・ドファン

第３回

風立ちぬ 東アジア気象地図

「歴史認識」の真相を考える――韓国の「歴史内戦」とオーウェル『１９８４年』

強制倒壊されて修理中の鄭律成の胸像

下川正晴

元毎日新聞論説委員
元ソウル・バンコク支局長

1949 年鹿児島県生まれ。
元大分県立芸術文化短大教授。
著書／『忘却の引揚げ史』『日本統治下の朝鮮シネマ群像』『引揚げと占領の肖像 BEPPU』『ポンジュノ』『私のコリア報道』など。

９月中旬、韓国取材に出かけた。今年はこれで３回目だ。数年前から「韓国と台湾の歴史（特に近現代史）認識の比較研究」を続けている。１９８０年代中盤からソウル特派員だった僕にとって、それは長年の課題であった。

今回の訪韓取材では、韓国内の「歴史内戦」が激化していることが確認できた。

「歴史内戦」に積極的なのは、政府・保守勢力側である。２年目を迎えた尹錫悦政権が、左派勢力に対して本格的な攻勢を仕掛けたとも言えるが、もっと視野を広げてみると、韓国周辺でも「ポスト冷戦期」が終わった影響だと考えるのが妥当である。

北朝鮮は９月末、最高人民会議を開き、憲法に「責任ある核保有国として、核兵器の発展を高度化する」核武力政策を明記することを決定した。これは金大中政権の「太陽政策」を始めとした一連の南北宥和政策が大失敗に終わったことを示すものである。

韓国「歴史内戦」の戦場の一つが、１９８０年代の韓国人を反米に傾斜させた光州事件の現場であるのは意味深長だ。もう一か所は韓国軍将校を養成する陸軍士官学校（ソウル市）である。

前者では中国解放軍行進曲などを作曲した光州出身の作曲家・鄭律成の胸像が、左翼からの転向活動家によって引き倒された。後者ではソ連共産党員だった独立運動家・洪範図の胸像移転が、学校側によって計画されている。２つの胸像の共通項は「共産主義者」だった点だ。反共国家として出発した韓国で、共産主義者が顕彰される異様さに、ようやく気づいたということなのか。

私が「韓国・台湾の歴史認識研究」を思い立ったのには、２つの理由がある。一つは、台湾も韓国も日本の旧植民地だったからだ。つまり「植民地近代とは何か」という問いに、自分なりの答えを見つけたいと思ったのだ。

もう一つは、「国民国家の形成・失敗とは何か」という問題だ。両国ともに植民地からの「他律的解放」後、権威主義体制を経験したが、同じ１９８７年に「民主化」を果たした。

しかし、その後の軌跡は対照的である。近現代の歴史認識を巡って左右勢力が分裂した韓国に対して、台湾は実質的な独立国家（中華民国台湾）としての国民意識を着実に構築中である。この違いはなぜ生まれたのか。

言うまでもないことだが、歴史的事実と歴史認識は異なる。「過去を支配する者は未来を支配する。現在を支配する者は過去を支配する」。ディストピア小説『１９８４年』で、英国の作家ジョージ・オーウェルが書き留めた言葉は、歴史認識形成の真相を突いている。現在の支配的な過去解釈が歴史認識であり、それが国家の未来のあり方を決定していく、ということなのだ。

オーウェルは「歴史認識の二重思考」構造という問題を提起した。現在の歴史認識を構築するために、「必要なのは自分の記憶を打ち負かし、その勝利を際限なく続けることだ」と、皮肉たっぷりに書いている。記憶は捏造されると彼は言っているのだ。

このくだりを読みながら、苦笑せざるを得なかった。歴史の証言者たちのウソ（例えば慰安婦問題）を思い返したからである。韓国と台湾の近代史研究で、「自分の記憶を打ち負かし、その勝利を続ける」者が多いのは、断然と言ってよいほど、韓国である。これは大韓帝国の植民地転落（国権喪失）が、現在の大韓民国に与えた深刻な統合失調症（トラウマ）であると言うしかない。

「化外の地」から出発した台湾の近現代史には、この症状がさして見られない。１６世紀以来、台湾はオランダ、鄭成功、清朝、日本、中国国民党と連続して外来政権に支配されてきた。しかし民主化後の台湾は、「台湾人の台湾人による台湾人のための台湾」だ。

現在の蔡英文 総統のルーツが客家とパイワン族の混血であることは、もっと注目されてよい。現代台湾は外来政権とともに移動してきた各族群が、原住民族などと複合的に混血して形成された「新型の国民国家」である。単一民族神話を背景にした民族主義史観が横行中の韓国とは、その意味でも対照的である。

紙数が尽きた。

プーチンによるウクライナ侵略戦争は先が見えない。さらに、ハマス・イスラエル戦争が勃発した。第二次世界大戦後の「戦間期」を経て、再び「戦争の時代」に突入する様相を見せている。「過去を支配する者は未来を支配する。現在を支配する者は過去を支配する」。絶望の小説を改めてレビューすべきであろうか。

넘고 넘어
こえる

K-BOOK フェスティバル
2023 in Japan

11.25土 ›››26日
12:00-18:00　11:00-18:00

K－BOOK フェスティバルは、いま話題の“韓国の本”をこよなく愛する人たちの「もっと読みたい、もっと知りたい」という声にお応えする本のお祭りです。

【オフライン会場】

出版クラブビル 3F・4F
東京都千代田区神田神保町 1-32-32
地下鉄 神保町駅 A5 出口すぐ

【オンライン会場】

YouTube

共催：一般社団法人 K－BOOK 振興会、韓国国際交流財団
主管：K－BOOK フェスティバル実行委員会
後援：一般財団法人 日本児童教育振興財団、韓国文学翻訳院、韓国出版文化産業振興院、駐日韓国大使館 韓国文化院
李熙健韓日交流財団、アモーレパシフィック財団、株式会社クオン、永田金司税理士事務所

問い合わせ先
K－BOOK フェスティバル実行委員会事務局
info@k-bookfes.com